

# 『真光寺川 里親の会』通信

3月号 一通算第96号一

2009年3月8日

## 「湧水を散策しよう」菅原神社～滝ノ沢湧水～芹が谷公園！

2 月8日の例会は菅原神社に集合し、午前中は滝ノ沢へ、午後には芹が谷公園へと町田の代表的な湧水を散策しました。陽春の日射しの中、タウンニュースの記事を手に、小生の知らない女性が声をかけてくる。一人、又一人、玉川学園から、金井から、中町から、原町田から等など、タウンニュースのPR力を改めて知らされた。当日の資料を用意された樋渡さんは、女性陣の参加の多さに驚き、急ぎコンビニに走られた。

10 :30 総勢 16名、司会の山本さんから、会員外7名の参加の女性に歓迎の意を表しイベントがスタート、山口会長から菅原神社境内にある鎌倉時代の井手の沢古戦場の話、鎌倉街道沿いに位置する大事な泉がここにあったことが説明された。続いて樋渡さんから、今井川とわさび沢川が恩田川の源流であり、今日は一級河川、恩田川の上流端からわさび沢川を遡る行程の説明に加え、町田の湧水（忠生公園、滝ノ沢、芹が谷公園）は地表から約15mの関東ローム層下の砂利層から湧いていること、建築現場の調査からも確認されていると話された。「昔は、70尺（約21m）掘れば水が出た」という話をされた人がいたが、50mでも衛生面では心配があり、飲める水を得るには100mくらい掘る必要があるとのこと。又「菅原神社の御神水も昭和30年代には水遊びの場であった」と参加の女性は話された。



菅原神社で井手の沢湧水の話聞く

11 :00 恩田川に向う。会の行いが良かったからか、散策には絶好の日和である。「真光寺川に比し恩田川の水はきれいだ！」の声々。その理由を知るのが今日の目的でもある。久美堂書店の脇、住宅街を流れる小川のな旧恩田川の流れを見る、水害対策から現在の恩田川の形態になったとの説明があった。恩田川水路脇の日向台藤棚公園に戻り、福寿草の花に春が感じられた。今井川との合流点を過ぎ、鎌倉街道を横切る。旭町体育館方向からの水路も合流、いよいよわさび沢川の探索に入った。水害防止用の調整池を経て、本町田緑地に向う。水路に所々鉄分によるさび色部分は見えるが、総じてきれいな水であり、女性陣からは「クレソンがある」との言、ステーキに添えられたクレソンの色合いや味の話が飛び交う。本町田緑地は、現地住民により閉鎖し管理されており、毎年ではないが蜚が見られる由。大事にしたい場所の一つである。

市民病院の北側、急斜面に建てられた住宅街の中の湧水地で、まず水温を計る、16.4℃であった。そして2リットルの軽量カップを用い、一杯になった秒数は5秒、1分で24リットルの水量となる。清水谷公園の湧水を見た後、湧水路で三角せき式測定の説明を受けた。水路には水草が茂り、その水のきれいなことに感嘆しきりであった。本町田ひまわり児童公園の北側から暗渠が始まり、しばし流れとお別れする。暗渠の上が住宅街の道路となり、マンホールの上に立つと水の流れがかなり大きな声で聞こえてくる。滝ノ沢児童公園で暗渠が終り、



湧水量の豊富な滝ノ沢湧水

12 時過ぎ滝ノ沢湧水にたどり着いた。「ここに50年以上前に遊びに来たことがある」「この水を飲んだ！」と一人の女性が言った。この湧水量は6000m<sup>3</sup>/日で、一般家庭が一日で使う水の12年分に相当する。忠生公園の3倍、町田で一番の湧水である。公園化が決まっているが、湧水部分の半分から北側はマンションの所有者の土地であり、借地等の願いを進めている最中である。順調に進めば年内に着工の予定である。午前の滝ノ沢湧水散策は12:30無事に終了した。滝ノ沢湧水のすぐ上、町田街道のバス停「滝ノ沢」からバスに乗り、町田バスステーションで降り好みのお店で昼食を摂った。

午 後2時健康福祉会館前に再度集合した。日曜の昼飯時のため、混み合っており出発は少し遅れる。午後の参加者は12名である。芹が谷公園の広場からトンネルをくぐり、小田急線側に出る。芹が谷公園の続きで谷戸になっており、自然のたたずまいが残り、音をたてて水が細い水路を流れている。

傾斜地のあちこちから水が地表に湧き出している。ここは湧水が減ったため一部恩田川の水を引いているようだ。3時過ぎ、芹が谷公園内で解散する。

恩田川の水がきれいなのは、滝ノ沢を始め豊富な湧水があちこちにあることが理解できた1日であった。  
(大山憲一記)

## 和光鶴小・公開研究会「真光寺川の本当のすがたってなに？」

**和** 和光鶴小では、4年生の総合学習として「真光寺川の研究」に取り組んでいます。1月31日、中島先生がその成果を発表されました。当日は、全国から小・中・高の先生方、大学院で勉強されている方々が多く集まり熱心に討議されました。その発表は大変興味深いものでした。

1学期、子供達に真光寺川の絵を描いてもらうことから始まりました。様々なイメージを持っていることが分かりました。そしていよいよ実地探検、子供達は川に入り大喜びし、多くの情報と疑問を持つようになります。それを「情報カード」に整理しテーマをしばり「仮説をたて、実地で確かめる」ことを進めていきます。

2学期、子供達の関心は川の生き物、とりわけシジミへ集中していきます。シジミの種類、在来種と外来種の違い、棲息する地域、体の仕組み等様々の情報を集めていきます。清流の会の山岡さんやお住まいが真光寺川沿いにある宮川さんの話を聞き、真光寺川とシジミの関係を追究し、更には内水面研究所の勝呂さんや日本シジミ研究所の中村さんを訪ね知識を深めていきます。そればかりでなく、教室でシジミを飼い生態を具に観察します。驚いたのはシジミ汁を作り皆で舌鼓を打ったことです。その成果を「シジミ新聞」に逐一まとめていきます。

子供達が好奇心を持ち、真光寺川が好きになって行く様子が生き生きと報告されました。この子供達は、いつまでも真光寺川のことを忘れることはないだろうと、嬉しくなりました。(山口拓郎記)



真光寺川についての公開研究会の様子

### 『めだかポスト』

本町田の戸村公子様より大量のしかも多額の切手をご寄贈いただきました。また真光寺の生江様からのご寄付、「めだかポスト」への寄付のほか一木会からの寄付など合算して、2月は合計 74,569 円でした。里親の会の活動に対して皆様のご厚志に感謝いたします。

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「**印字済払込取扱票**」をポスト脇のファイルに入れてあります。「**赤インク印字の払込取扱票**」をご利用頂ければ、**手数料無料**でお振込みが出来ます。またなるべく**ATMでの振込み**をご利用ください。どうかよろしくお願いたします。

郵便振替 『00150-4-574114』

加入者名 『真光寺川里親の会』

### 私たちの行動基準

- 1, 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
- 2, 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
- 3, 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

## 4月の清掃日は12日(第2日曜日)です。一緒に川をきれいにしませんか

川の中や川の周辺のゴミを拾います。一般の方々のご参加、大歓迎です。

☆ スケジュール **9:30 下堰親水場 集合**

09:30 開戸親水場～神明橋間のオペレーション(清掃作業)

11:30 作戦会議(「いちょう会館」) 12:30 解散予定

『<http://www.shinkojigawa.com/>』 ホームページへご意見ご感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382

事務局：町田市広袴3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail [ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp](mailto:ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp)